

ACG032-21

会場:105

時間:5月27日 15:15-15:30

アジアモンスーン域における降水量の長期変動に関するデータとデータレスキュー Long-term rainfall data and data rescue in Asian monsoon region

松本 淳^{1*}, 久保田 尚之², 赤坂 郁美², 遠藤 伸彦², 浜田 純一², 増田 耕一², 財城 真寿美³, 山中 大学², 森 修一², 上米良 秀行², 林 泰一⁴, 寺尾 徹⁵, 村田 文絵⁶, 木口雅司⁷, 山根 悠介⁸, 平野 淳平¹

Jun Matsumoto^{1*}, Hisayuki Kubota², Ikumi Akasaka², Nobuhiko Endo², Jun-Ichi Hamada², Kooiti Masuda², Masumi Zaiki³, Manabu D. Yamanaka², Shuichi Mori², Hideyuki Kamimera², Taiichi Hayashi⁴, Toru Terao⁵, Fumie Murata⁶, Masashi Kiguchi⁷, Yusuke Yamane⁸, Junpei Hirano¹

¹ 首都大学東京, ² 海洋研究開発機構, ³ 成蹊大学, ⁴ 京都大学, ⁵ 香川大学, ⁶ 東京大学, ⁷ 高知大学, ⁸ 常葉大学

¹Tokyo Metropolitan University, ²JAMSTEC, ³Seikei University, ⁴Kyoto University, ⁵Kagawa University, ⁶University of Tokyo, ⁷Kochi University, ⁸Tokoha University

アジアモンスーンの長期変動に関するデータセットとしては、英領植民地時代からのデータアーカイブを継続しているインドのものが有名で、1871-2008年にわたる全インドの306地点の均質な全インド月降水量や1813-2006年にわたるインド域最長降水量観測データは、インド熱帯気象学研究所のWeb pageから自由に入手が可能になっている。しかし他のアジアモンスーン域の国々においては、第二次世界大戦以前の植民地時代におけるデータや第二次世界大戦中や直後におけるデータはきわめて限られており、100年の時間スケールでの変動は十分に解明されていなかった。WCRP/GEWEX/MAHASRIでは、アジアモンスーン地域の陸域における降水量や降雨特性・水循環の長期変化を観測データから解明すべく、独自の長期観測網の展開や紙媒体でのデータのデジタル化によるデータレスキューを含むデータ収集活動などを実施してきた。フィリピンにおけるスペイン領および米領時代の降水量や台風経路データが紙ベースで残っていたことから、これらのデータのデジタル化を進めたのを皮切りに、JAMSTECが受託した文部科学省「データ統合・解析システム」(DIAS)経費、首都大学東京が受託した環境省地球環境総合推進費(B-061・A-0902)や発表者が受けた日本学術振興会科学研究費補助金などの経費を得て、アジアモンスーン域における第二次世界大戦以前の期間を含む降水量の長期変動に関係するデータを作成・解析している。これらの成果について発表で紹介する。

キーワード: 降水量, アジアモンスーン, 台風, 長期気候変化, データレスキュー

Keywords: rainfall, Asian monsoon, typhoon, long-term climate changes, data rescue